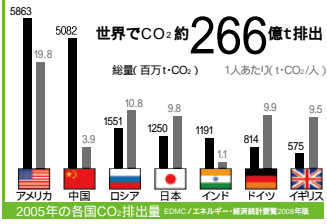




地球温暖化防止の対策と動き

- 世界** 1992年6月「気候変動枠組条約」が国連総会で締結（1994年3月発効）
- 世界** 1997年12月「京都議定書」をCOP3が採択。2012年までに温室効果ガスの排出量を1990年より先進国全体で5%削減する目標を掲げる。日本は-6%。
- 日本** 1998年10月「地球温暖化対策の推進に関する法律」制定
- 福岡** 2003年3月「福岡県環境総合基本計画」を策定。
- 福岡** 2003年12月「九州環境管理協会」を福岡県が「福岡県地球温暖化防止活動推進センター」として指定。
- 日本** 2005年4月「京都議定書目標達成計画」を閣議決定。
- 福岡** 2005年5月「福岡県地球温暖化防止活動推進員」を委嘱（現在104人）
- 福岡** 2006年3月「福岡県地球温暖化対策推進計画」を策定
- 福岡** 2007年9月「第1次福岡町総合計画」を策定。第4章の3で「地球温暖化対策の推進」を主要施策に盛り込む。
- 世界** 2008年1月「クールアース推進構想」を日本が世界経済フォーラムで提案。
- 世界** 2008年7月「北海道洞爺湖サミット」で「排出量削減の世界全体の長期目標を含む長期的な協力的行動のためのビジョンの共有を支持する」との首脳宣言を採択。



京都議定書が採択されたCOP3の国会議場

温 酸化炭素(CO₂)の排出量を吸収量と同じ量まで減らす必要があります。しかし、世界のCO₂排出量は約266億トン(2005年)で、自然界が吸収できる量はそのうちの半数に満たないと推定されています。昨年ノーベル平和賞を受賞した科学者達の会議「IPCC」は「地球の破局を避けるためには、次の10年から20年の間にピークアウト(悪化から脱する)し、2050年には少なくとも半減しなければならぬ」と警告を發しています。

しかし、温暖化とその影響はすでに止めることはできません。もし、CO₂の排出量が安定するまでには数百年かかるともいわれています。温室効果ガスは放置すると増え続け、深刻化します。悪影響が進むほど回復が困難になり、やがて進行が止められなくなります。だからここで、そのなる



前に対策が必要なのです。地球環境はそれだけ追いつめられています。

温暖化の局面に直面 排出量削減は人類の責務

地球全体で温室効果ガスのピークアウトを実現させるためには、排出国すべてが参加する仕組みや公平な目標設定が必要です。そこで国際社会では「京都議定書」の取り組みをはじめ、議論や対応が進められています。温暖化対策が急務だといっているのはあらゆる国が認識

しています。7月に開かれた北海道洞爺湖サミットの最大のテーマは「気候変動問題」でした。日本は昨年、世界的な約束づくり、国際的な環境協力、技術革新という3つの手段「クールアース50」を提案、洞爺湖サミットでは議長国として、2050年までに世界の温室効果ガス排出量の半減、呼びかけ、G8(主要国首脳会議)で目標が共有されました。

人類がこの地球上で永く生存していくためには、人類の責務として温室効果ガスを大幅に削減しなければなりません。そのためには「今なら間に合う」「今やらなければ大変なことになる」という意識が大切。温暖化問題は地球規模の課題ですが、まさに、シンク・グローバリー、アクト・ローカリー(地球規模で考え、地域で行動しよう)の精神が求められます。いま、国内すべての自治体では、対策に向けた取り組みが進められています。

京都議定書と京都メカニズム

1997年に気候変動枠組条約第3回会議(COP3)で「京都議定書」が採択され、2012年までに温室効果ガス排出量を1990年と比べ先進国全体で5%(日本は6%)削減する目標を掲げました。ここで定められた目標達成のための柔軟性措置が「京都メカニズム」です。一般に「共同実施(先進国に投資した削減分算入)」「クリーン開発メカニズム(途上国に投資した削減分算入)」「排出量取引(削減目標達成のため排出量を売買する制度)の3つを指し、さらに森林づくり(カーボンオフセット)の排出量削減算入も認められています。なお、国内企業間の排出量取引制度は今秋から試行予定です。

気候変動問題が主題となった北海道洞爺湖サミット



地球規模で身近な温暖化問題 Think globally, act locally.



地球と共に歩むことは、人間が誕生したときからの地球との約束でした。しかし、このままでは破局を迎えかねません。今ならまだ間に合います。「今こそ」対策が必要です。世界と私たちはつながっています。

世 界国、県町そして、わたしたち一人ひとりが結びついていることをぜひ認識してください。今こそ温暖化対策に「地球規模で考え、地域で行動する」ことが求められています。

人類史上最も困難で長い闘いになる課題
未来から許されるために、今すべきこと...